



リズムによって動くということ

岡部和子

私は山梨県女子体育連盟の会長として、学校体育の授業のダンスや運動会の作品のマスゲームなどオリジナルの作品を作り、県内の先生方に情報を提供しています。女子体育連盟は研究団体としてダンスの指導法の研究やマスゲームの指導法について研究を行い会誌を発行しています。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、マスゲーム講習会は3年間、実施・開催することはできませんでした。その間学校現場は密にならないためフォーメーションを広く取り、移動隊形を少なくし、接触を回避するなど創意工夫がなされ、特色のあるマスゲームを各学校は実施し、動画配信等を参考に取り組んでいました。

2012年の学習指導要領改訂により、中学校の一・二年生は必須科目、三年生は選択科目としてダンスが組み込まれました。小学校では体育授業に「表現運動」や「リズムダンス」が必修化されていたため、12年間連続してダンス教育を学びます。ダンス授業の必修化の目的は、仲間とのコミュニケーションを図るとともに、一体感や連帯感を養うことです。学校現場の子どもたちは教えたり教わったりしながら互いに会話を交わし、必需品のタブレットを用い作品作りに励んでいます。ダンスにはICT活用はなくてはならないものです。

中学校では以前は武道かダンスのどちらかを学校が選択していましたが、今はダンスに統一されています。ダンスを通じて経験できる多感な時期の中学生には「心と体を一体としてとらえること」ができ、仲間とのコミュニケーションを図るには最適な教材と言えるでしょう。運動嫌いな児童・生徒にとっては勝ち負けにこだわることもなく、高く跳んだり速く走らなければならないこともないため、ダンスを通じて「消極的」だった児童・生徒が「積極的」に動く姿も多くみられるそうです。最初は恥ずかしさもあつたりしますが、みんなで音楽をかけてやると楽しくなり、思いっきり踊っています。

授業の内容は「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムダンス」の1つから学校が選択することになっています。「現代的なリズムダンス」を選ぶ学校が多いようです。流れは基礎となるステップを学び、班ごと振付、構成を考え発表をします。チームごとに動画配信を見て振付を覚えたり、フォーメーションを考えたり、チームでまとまり作品を完成さ

せます。

ダンス授業必修化はダンスが上手い下手で評価づけするのではなく、ダンスの楽しさ、仲間との一体感を感じ、興味や視野を広げるためにも最適な時間だと思います。逆に一人でも練習できるので向上心や自主性が高まり、リズム感・音楽の知識を獲得することができるのではないかと思います。

しかし、「創作ダンス」においては「激しい感じ」、「祈り」など抽象的な題材や、祭りやスポーツの攻防などの題材で体を動かすのは難しいようです。「現代的なリズムダンス」より苦手意識が先行します。感情を入れ、そのものになりきり、自由に表現するのは苦手の様です。懸念を抱くのは、教師が生徒に寄り添い声掛けしながら指導する授業より、動画配信を参考に作らせてしまうことです。また、運動会のマ스ゲームをダンスの授業に置き換えたり、動画だけで学ばせるなどの授業であったりすることがみられます。教師が子供たちに寄り添い、イメージをとらえて、変化や起伏のあるひとまとまりの動きで表現できるように指導を加える必要があります。ダンスは人からの評価をもとに自分の姿を見つめることができるようになるため、友だち同士でアドバイスし合う場も設けられます。ダンスの授業は指導しにくいと感じている先生が多いようです。他教科のような明確な指導内容やテキストがないことや、先生自身のダンスの経験不足や恥ずかしさからくる不安などがあります。児童・生徒が踊ることを恥ずかしがってしまったり、高学年になると意欲的にやらなかったり、児童の気持ちの問題もあります。ダンスを自身の学習体験としてもたないという教員は多いです。ヒップホップなどの特定ジャンルに絞っているならば、経験不足は尚の事でしょう。そのため児童・生徒の手本になることが難しく、多くの教師が指導方法に関して不安を感じています。実際にアーティストが踊っているのと同じ振り付けを模倣させるような指導方法を行っている先生もいます。その場合、踊りの定型表現を覚えることが目的になってしまいます。個々の教師の力量差による授業レベルの高低がみられるのではなく、体を動かすことが好きで、仲間と一緒にあって、リズムに乗って動くことが楽しいと思える授業づくりが大切だと思います。

文部科学省伝達講習会としてダンス指導のための研修などがあります。より一層先生へのサポートや教員養成課程での学びが必要ではないかと思われれます。

県内の多くで見られる企業スポーツジムで、老若男女問わずエアロビクスやズンバを楽しく踊っている場面を見るたび、これが生涯スポーツの姿だと感じるがあります。汗をか

き楽しく体を動かすことは心身ともに必要だと思います。未来ある児童・生徒が仲間と共に心を開放し、自由に楽しんで体を動かす喜びを知ってほしいと願っています。